

ズブズブ班 A

ビエンチャン市サイタニー郡の市場における生物資源流通

池口明子（名古屋産業大学） 齋藤暖生（京都大学大学院農学研究科）

足達慶尚（岐阜大学大学院農学研究科） 野中健一（総合地球環境学研究所）

西村雄一郎（総合地球環境学研究所）

キーワード：市場 流通 生物資源 商人

調査期間・場所：2004年8月21日－9月16日，2004年11月11日－17日，
2005年3月1日－15日，サイタニー郡**Marketplace networks and distribution of natural resources in Vientiane City and Xythani District, Laos.****Akiko IKEGUCHI (Nagoya Sangyo University), Haruo SAITO(Graduate school of Agriculture, Kyoto University),
Yoshinao ADACHI (Graduate School of Agriculture, Gifu University), Kenichi NONAKA(Research Institute for
Humanity and Nature), Yuichiro NISHIMURA(Research Institute for Humanity and Nature)**Key words: Marketplace, Distribution, Natural Resources, Marchant
Research period and site: 21 August - 16 September, 11-17 November 2004, 1-15 March 2005.
Xythani district

要旨：サイタニー郡の市場について分布状況と規模を明らかにし，立地環境との関連を論じた．またそのうち規模が大きな市場を取り上げ，商品分類ごとの流通経路，および商人の属性を明らかにした．その結果から，農村で入手可能な生物資源の流通には，多くの商人と村人が参加している可能性を指摘した．

1. はじめに

森林と水田が混合した景観をもつビエンチャン平野では，これらの環境に適応して生息する様々な生物資源が利用されている．この生物資源は，人々の自給生活にとって欠かせない食料であり，かつ小規模な物々交換から商人による売買にいたるまでの交換を生じさせる主要な資源である．このうち市場を介した生物資源の販売は，農村において不安定な自給生活を補う現金収入の獲得手段として重要である．市場での売買には生活の状況にうまくして臨機応変に参加することができるし，身近な生物資源を商品とすることで，少ない投資で始めることができるからである．

このような市場や商品の特性を反映し，投機的な商売をおこなう専門的な商人から一時的な販売を目的とした村人まで，さまざまな人々が生物資源を販売している．市場における生物資源の流通経路は，これら多様な活動のあり方やその背景にある地域性を反映していると考えられる．本研究は，商品あるいは生物資源の特性と商人の活動のあり方に着目して流通経路の動態を示すことにより，地域生態史の一面を明らかにしようとするものである．

2004年度は，サイタニー郡全体の市場の分布を把握し，生物資源とその流通経路，および流通主体について調査をおこなった．以下では調査の概要と，そこから得た若干の知見を報告する．

2. 方法

(1) 2004年度の調査概要

市場に関して本年度におこなった調査の概要は以下のとおりである．

①商業環境調査

サイタニー郡のいくつかの集落において，数人の住民に対し交通費や生鮮品売買の方法に関して聞き取りをお

こなった。

②市場立地調査

サイタニー郡における現地調査と、各村落の村長へのアンケート調査（足達・宮川による報告を参照）にもとづき、市場の分布を把握した。さらに、市場開設の経緯について、斉藤がすべての市場において聞き取り調査をおこなった。

③市場内部の空間構成

サイタニー郡内のすべての市場について、店舗と取扱商品の空間配置を、観察および歩測により調査し、図面を作成した。

④販売される生物資源・流通経路・流通主体

2004年8月から9月の間、全16ヶ所の市場のうち8ヶ所の市場において、精肉を除くすべての生鮮品について商品名・仕入方法・仕入地・販売主体の年齢・性別・居住地を記録した。また生鮮品はデジタルカメラで撮影して記録した。

調査した市場のうち最も品数・商人人数が多かった1ヶ所の市場については、2004年11月、2005年3月に再度同様の調査をおこなった。また、3月の調査では商人に対し所有農地面積も尋ねた。

なお、これらの調査は、夕方15:30から19:00の間におこなった。市場で最も活発に取引がおこなわれるのは早朝と夕方であるが、早朝については未調査である。

(2) 本報告の方法

本報告では、サイタニー郡全体の市場の立地状況、および3回の調査をおこなった1箇所の市場の流通経路と流通主体について述べる。なお、市場で販売される生鮮品については、現在商品名と生物名の対応を合わせたデータベースを作成中であり、未確定である。そこで、本報告では植物資源を「葉菜類」「果菜類」等に、動物資源を「魚類・および水生動物」「昆虫」等に分けて、それぞれについて流通経路を述べる。また、販売種としてとくに取扱いの多い資源についてはそのいくつかを取り上げて詳細を述べることにする。

3. 商業環境

(1) 交通

サイタニー郡はビエンチャン特別市内に位置し、ビエンチャン市街地までは車で1日で往復できる距離にある。市街地から北に向かう国道15号線と、これから途中東に分岐する国道13号線が主要な舗装道路である。このほか、国道13号線から北に分岐する舗装道路が2本あり、このうち1本は舗装がかなり崩れている。これらのほかは未舗装であり、雨季には車両が通行不可能になる道路もある。国道15号線はタゴン村でゴム河と交差し、この橋の使用料金は1回1車両につき3,000kipである。

ビエンチャン市街地までの公共交通手段には、バス、個人経営による乗り合いバス、バイクタクシーがある。サイタニー郡で運行する主要な大型バスは日本のODAを受けた国営バスとラ

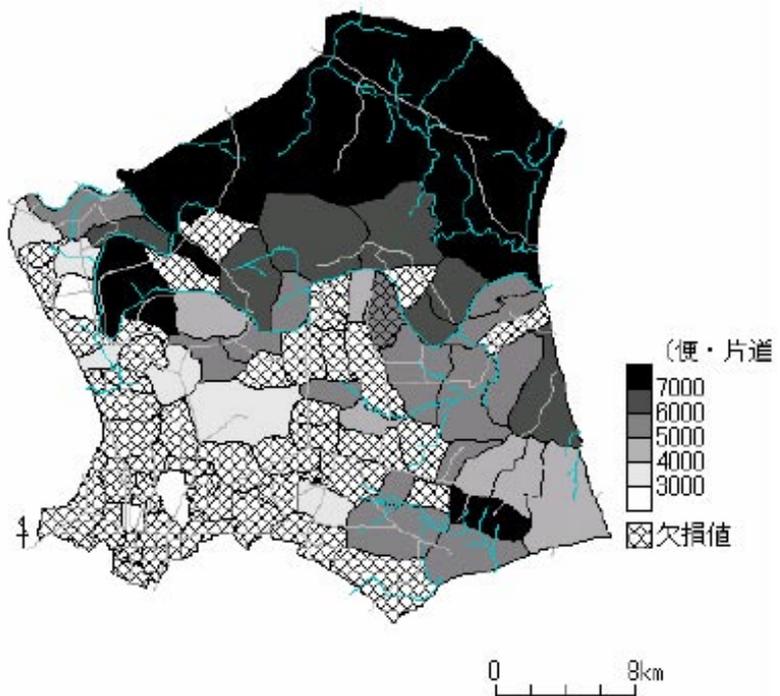


図1 ビエンチャンまでの交通費
(聞き取り調査により作成)

オディー社（80%韓国資本）のバスがある。国営バスは国道沿いの集落のほか、15号線から東へナタン Natan 村まで行く路線、13号から北へ国道15号線と13号線沿いの集落とビエンチャン市街地までを往復するバスを運行している。とくに運行が頻繁なタゴンまでの路線では朝6時から16時まで1時間に4-5本のバスが走る。そのほかゴム河より南側の地域には2年前までは国営・およびラオディー社が数本の路線を運行していたが現在は休止している。

早朝に、あるいは未舗装路をビエンチャン市街地に往復するには、個人経営の乗り合いバスが主要な交通手段である。図1はこれらの個人経営バスを含め、最も頻繁に利用される手段について、ビエンチャンまでの片道の運賃を示したものである。ビエンチャンまでの運賃は、ゴム河を境に大きく異なっている。ゴム河に接する北側の集落でやや運賃が安いのは、ゴム河を渡す船があるからである。これら集落の人々は、渡し料500～1000kipに加えて対岸の村からのバス運賃でビエンチャンに行くことができる。国道沿いの集落は比較的安いのが、とくに国道15号線とゴム川の交差点に位置するタゴン Thangon 村までが3000～4000kipと安く、国道13号線沿いの集落ではこれよりやや高い。これらの運賃は荷物を持たない場合であって、荷物を積んだ場合にはその量に応じて追加の運賃がかかる。

ビエンチャンで品物を売買する商人は、市場から出発する公共バスを使うか、もしくはグループで個人運転手と契約して荷物を運んでいるようである。筆者が聞き取りをした事例では、早朝オートバイでビエンチャンにやってきた商人が、選んだ品物を個人運転手に託して先に家に戻り、品物は販売地である農村市場へ届けてもらう、という方法がみられた。

(2) 売り手・買い手

市場の形成に関わる売り手・買い手人口の分布を考える1つの指標として、ここでは集落ごとの世帯当たり平均農地所有面積を検討する。農地面積がかなり小さければ、農外就業による現金収入への依存度が大きいと考えられ、市場の主要な買い手とみなすことができる。また、農地が自給に足りない世帯であれば、市場の売り手を輩出する可能性がある。ただし、集落内の農地配分が質・量において不均等な場合や、農地が広くても土地条件が悪い場合などでは、集落の平均農地面積にはその可能性は反映されない。

図2は足達ほか（2005）によるアンケート調査をもとにしている。ここで、農地とは低地稲作面積である。ビエンチャンからタゴンにいたる国道沿いの集落、およびゴム河南岸で所有農地面積が小さい。この地域では、市場での購入により、生鮮品を得る世帯が多いことが考えられる。先に述べたようにサイタニー郡内のうち、とくに国道沿いの集落はビエンチャン市街地への交通アクセスがよく、農外活動への参入機会が大きい。また、タゴン村周辺には警察学校や役所が分布していることから、公務員の割合も高いことが考えられる。ゴム河南岸のいくつかの集落はラオスンが占める人口割合が高い（足達ほか 2005）。このうち1つの集落を訪ねて聞き取りをしたところ、刺繍の販売による現金収入を、世帯収入の中心としている世帯が多いとのことであった。

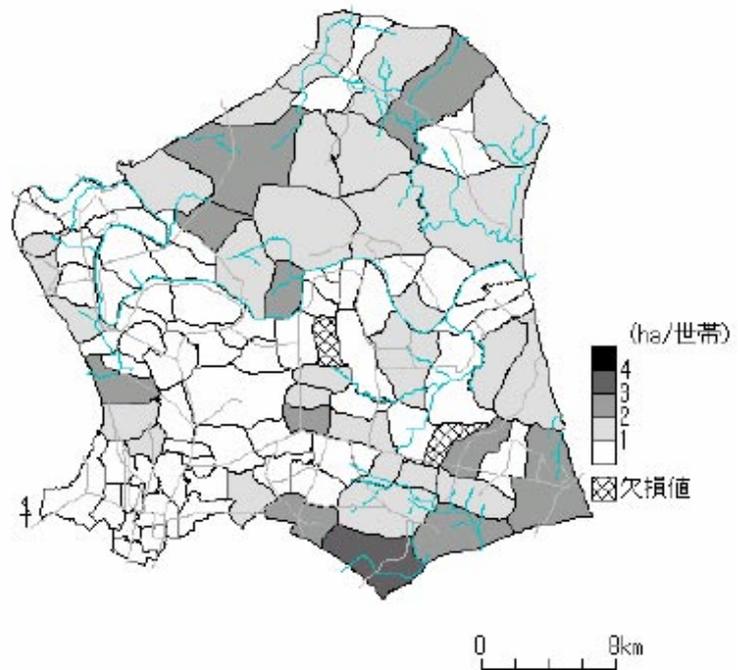


図2 世帯あたり低地稲作面積
(足達ほか(2005)をもとに作成)

これらの地域のほか、ビエンチャンに近い市場では、ビエンチャン市内の自動車所有世帯も買い手となる可

能性がある。買い手と市場立地の関係については、さらなる調査が必要である。

(3) 市場以外における生物資源の販売

サイタニー郡では、市場のほかに商店が広く分布しており、村人に日用品を販売している。図3にみるように、商店は調査されたすべての集落に分布しており、とくにタゴンは電化製品から衣類まで多種の商品が販売される中心地である。1つの集落に10～20程度分布するのは、「ハンカイコン」(乾物屋)と呼ばれる小売店で、菓子・ビール・タバコ、油などの調味料を中心に販売している。生鮮品としてはトウガラシやライム、ショウガなどを扱うが、葉菜や根菜、魚類などを扱うことは少ない。このほか、生鮮品の販売として行商がある。サイタニー郡北部の集落では、タゴンからの肉の行商が確認された。聞き取りでは、野菜も近隣の農家が行商にくるといふ。市場へのアクセスが難しい地域では、これら行商が生物資源流通にも大きな役割を果たしていると考えられる。

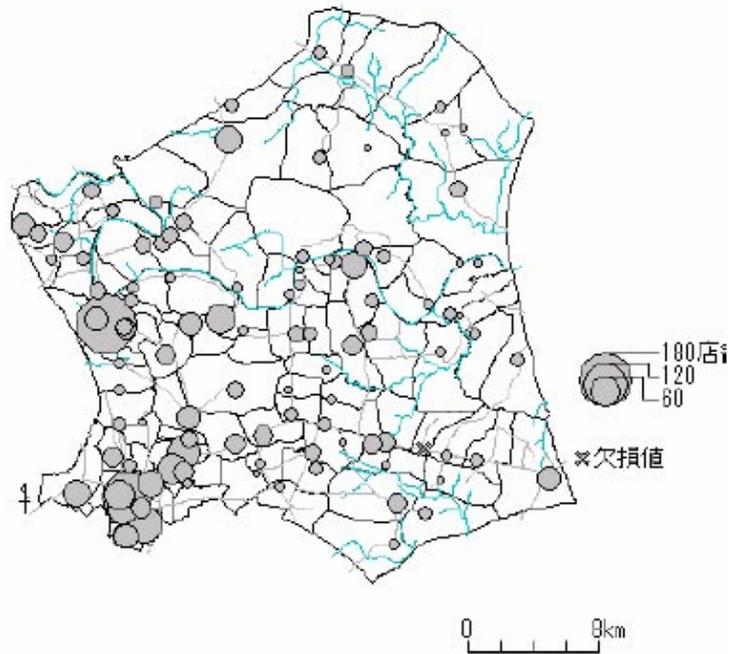


図3 商店の分布
(足達ほか(2005)をもとに作成)

4. 市場の立地と規模

(1) 市場の立地と経緯

2005年3月現在、サイタニー郡に分布する市場を図4に示す。市場は合計16ヶ所あり、すべてが毎日市である。分布は国道15号と13号沿いに集中しており、とくに15号沿いに多い。この地域は、前述した平均農地面積の小さい集落にほぼ対応している。

国道から離れた市場にはポンガム2Phongam2村、パクサップマイ ParkxapMay村の2ヶ所がある。この2つの市場の形成には次のような背景がある。

聞き取り調査によれば、ポンガム2村は1995年にサイソンブンの特別区から政府の指導により移住したラオスの人々により形成された村である。先にも述べたように、刺繍の販売が現金収入源となっており、刺繍は米国の親族に販売しているという。農地も小さく、森も少ないので日常の食料を得るうえで市場が主要な購入場所であるという。

パクサップマイ市場は、集落に立地するラオス国立大学農学部隣接している。ここには学生宿舎があり、市場は学生が食事をし、食料を購入する場所になっている。

サイタニー郡の市場の多くは、1990年代後



図4 市場の分布
(現地調査をもとに作成)

半に形成されたものである（図 5）。ラオス国立大学が立地するドンドク Dongdok 村では早くから市場が形成された。国道 15 号と 13 号の交差点にあるサイサバン Xaysavang 市場も 1980 年代に政策によって建設されたものである。これらを除いては、1990 年代になって形成され、2000 年代に入ってから規模が拡大してきた。利用者側の需要増加および投資家による市場経営ブームを受けてさらなる市場の新設や拡張も計画されている。

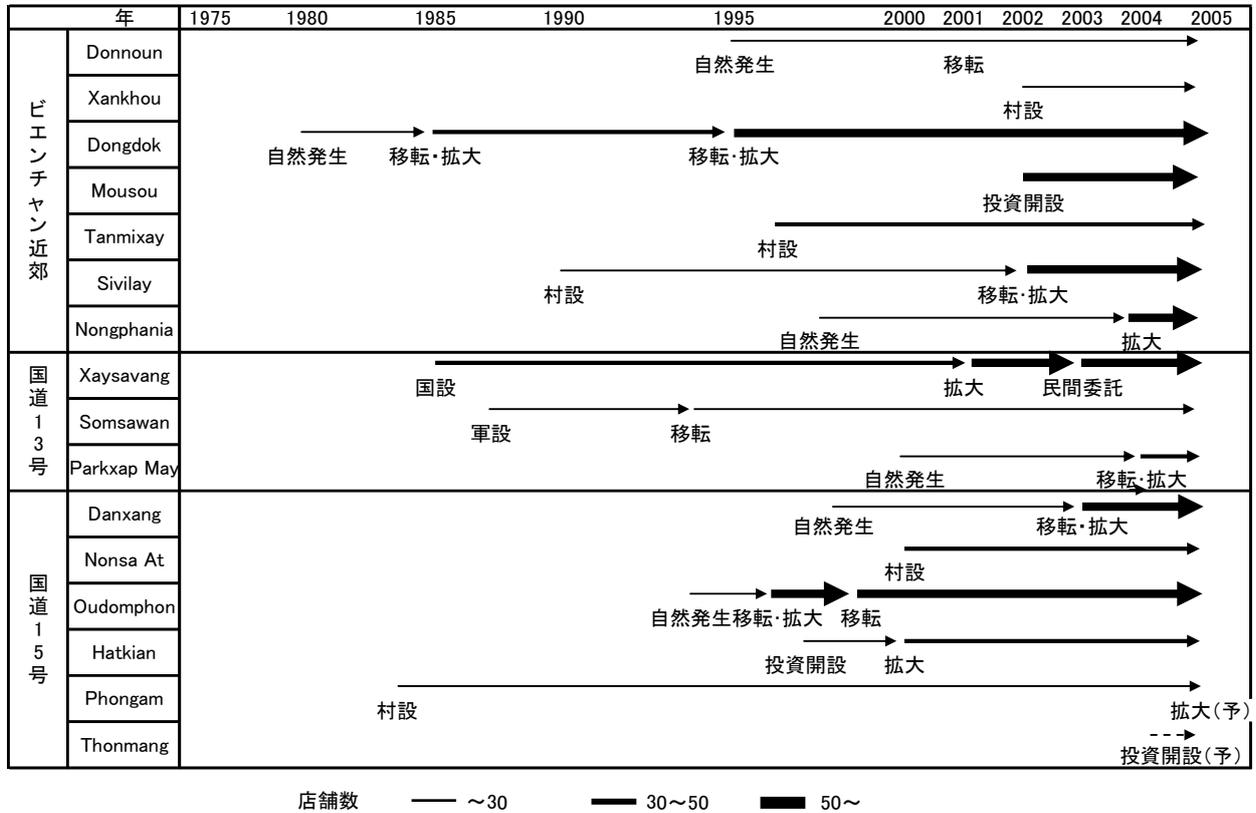


図5 市場の成立経緯
(聞き取り調査により作成)

図 6 は、2004 年 8 月～9 月に調査した市場における生鮮品商人の人数を示している。生鮮品商人の人数からいって最も規模が大きいのはダンサン Danxan 市場とタゴン市場である。ダンサン市場では 48 人、タゴン市場では 33 人が生鮮品を販売していた。ただし、ダンサン市場の調査日は 9 月 6 日の月曜日であり、この日は仏教による殺生の禁忌日であったので普段よりも取引人数はかなり少ない。また、あとで述べるようにタゴン市場は卸売市場としての機能が大きく、今回調査した夕方よりは早朝に人数が多いと考えられる。他にドンドク市場も生鮮品市場として規模が大きい、総人数については資料を未入手である。最も規模が小さいのはドンヌオン Donnoun 市場で、生鮮品販売者は合計 8 人であった。ほか、ハッキエン Hatkhen 市場やノンサアット NonsaAt 市場など多くは 20 人から 30 人ほ



どの商人が参加する中規模の市場である。

多くの市場では、その中央部に屋根のない販売空間をもち、そこでは主として生鮮品を扱う商人がテーブルや床上の敷物などに商品をならべて販売している。図7はダンサン市場の見取り図である。市場のうち、屋根がかかる部分には衣服や飲料、米や乾燥した豆などを販売する商人が店を構えている。また、生鮮品でも一年中販売する常設店舗では、屋根つきの建物に店を構えたり、パラソルを立てたりして販売している。この建物に隣接して屋根のない空間があり、そこでは机を並べて小規模な商人が様々な生鮮品を販売している。

市場の管理は、市場が開設された土地の所有者や投資家、運営会社、もしくは村の組織がおこなっており、市場使用料を商人から徴収している。市場使用料は市場によって大きく異なり、中規模の農村市場の露天空間では1人あたり1日1,000～2,000kipを徴収している。管理会社が介在するダンサン市場では3,000～5,000kipであり、同じ市場内でも扱う商品のタイプや量で異なる。

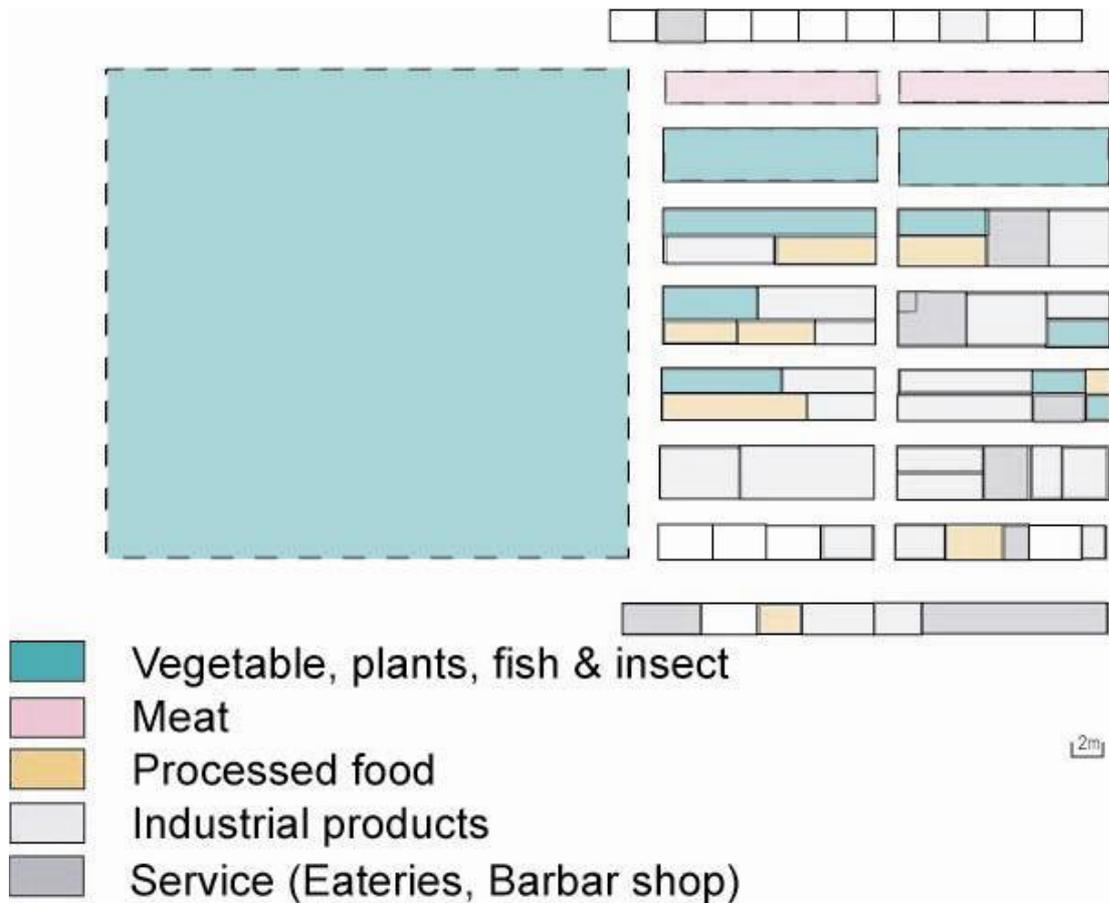


図7 ダンサン市場の店舗配置
(現地調査をもとに作成)

(2) 市場商人の居住地

ある市場に集まる商人の居住地分布は、採集・栽培されたり村で買い付けられた生鮮物のおよその供給地を示す。また、村人が情報交換したり顔見知りになったりする市場を介した交流範囲としてもとらえることができる。

図8は、8ヶ所の市場において商人の居住地を聞き取った結果を示している。ノンサアット Nonsa At 市場を除いて、すべての市場で生鮮品商人が最も多く居住するのは、その市場が立地する集落である。しかしその割合は市場によって異なっている。立地する集落が最も多くを占めるのはドンヌン市場とサイサバン Xaysavang 市場である。これらの市場は取引への参加人数も少なく、小規模な市場である。ハッキエン市場やノンサアット市場、パクサップマイ市場では、市場の周辺4～5集落から商人が取引に参加している。商人居住地が最も広範囲にわたるのはダンサン市場で、サイタニー郡内では主に国道15号沿いの13の集落から取引に参加している。

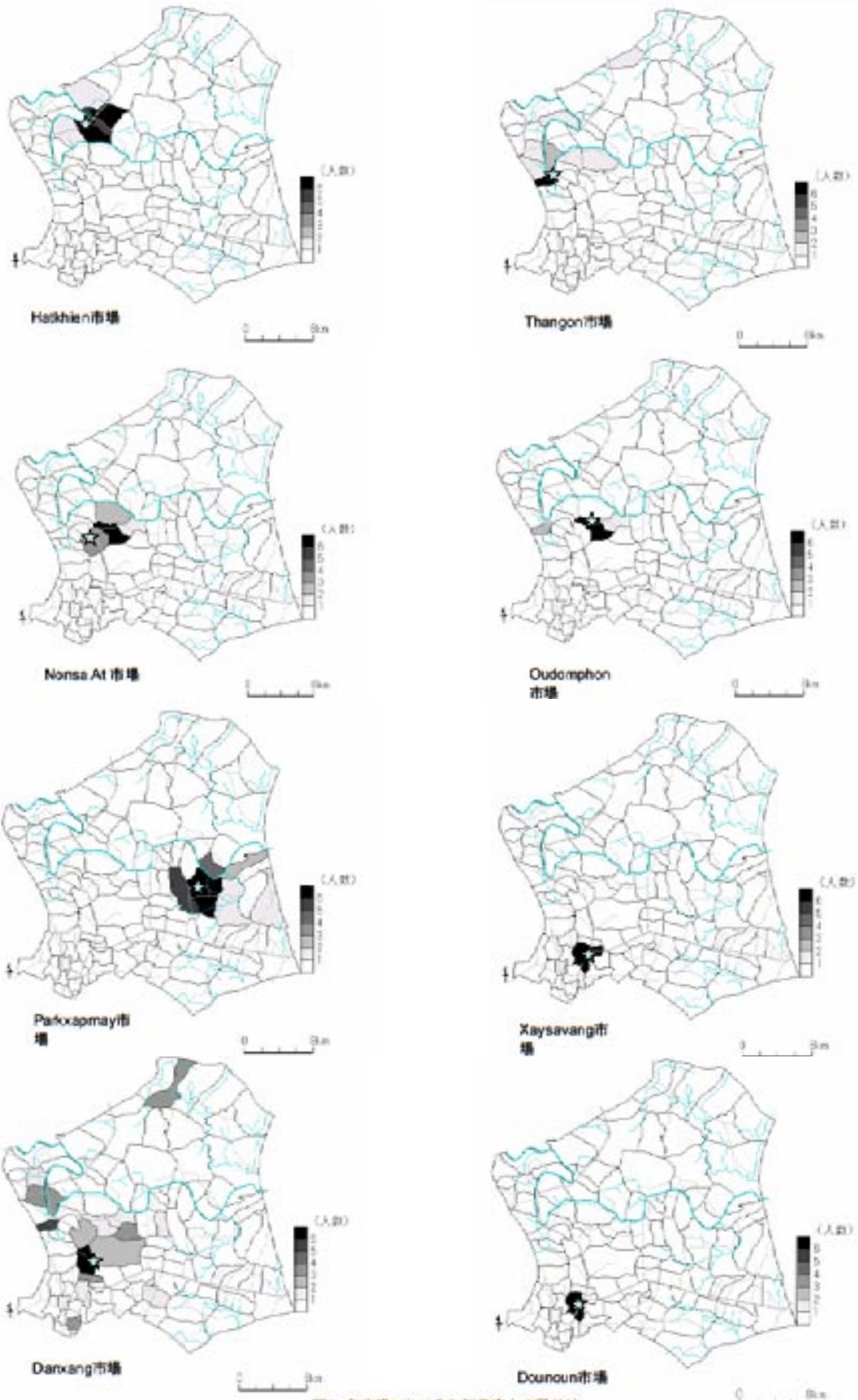


図8 各市場における生鮮品商人の居住地
(聞き取り調査により作成)

このうち最も多いのはダンサン村居住者（8人）で次にタゴン村居住者（5人）が多い。ほかにサイタニー郡外からも、トラコム Tracom 県（7人）ナサイトン Naxaythong 郡（3人）などから計14人が参加している。以上をみると、グム河と国道13号線には含まれた地域ではほぼすべての集落に市場での取引機会があると考えられる。一方、近くに市場のないグム河北東地域や、国道13号線よりも南の地域からは参加者が少ない。これらの地域では生物資源の採集者や商人は、交通のコストにみあうだけの品物を集めて、まとまった販売が期待できるビエンチャンで主に販売していることが想定される。聞き取りで得た事例をいくつか挙げると、北東部のナンゴムカオ NangomKao 村には、より西側に位置するフアナー Huana 村から仲買がやってきて採集物を集め、ビエンチャンの市場で販売している。ブンテン Veunthen 村のナンキョウ栽培者は、大量に収穫した場合には個人経営の車を借りてビエンチャン市場まで販売に行くが、少量の場合には収集にくる仲買に販売する。このような例はサイタニー郡全域にわたって多く聞かれ、ビエンチャンでの販売は大量の品物を扱う商人にとって、重要な選択肢となっていることがうかがえる。

5 ダンサン市場における生物資源の流通経路と商人

以下では、調査した市場のうち最も生鮮品商人が多く、かつ供給地が広範であったダンサン市場について、流通経路と商人の属性を述べる。

(1) 流通経路

表1は、2004年9月6日（月曜日）、2004年11月16日（火曜日）、2005年3月13日（日曜日）における生鮮品の流通経路をまとめたものである。なお、聞き取り対象とした商人は、図7で示した露天販売空間で販売していた生鮮品商人である。屋根つきの空間には、米や乾燥させた豆類、卵を販売していた商人も数人いたが、これらは含まない。また、露地で販売していた商人であっても、惣菜として加工された食品のみを扱っていた商人は対象としていない。

商品名による分類で、3回の調査をつうじて最も種類が多かったのは葉菜類であり、ついで果菜類、魚類など水生生物が多い。非食用植物とは、焼き付け用の薪や籐などの植物である。

11月と3月の調査時にはそれぞれ合計して168種類、170種類の生鮮品が確認された。ただし、野菜に関しては、同一の生物個体を葉菜・果菜・根菜と分けて商品としているケースをふくんでいるので、生物種数よりも商品数が多い。一方魚類・水生動物では、筆者が確認した限り同一の商品名に複数の魚種を含むケースがあるため、表中の商品種数は、生物種の種数か、あるいはそれより少ない数字を示していると考えられる。

表1 ダンサン市場における流通経路

調査日	生鮮品分類	商品種数計	仕入方法 (品・人数)											
			採集	栽培	村で購入	市場で購入							不明	
						Danxang	Thangon	That Luang	Kuadin	TL/KD	Sikhai	その他	不明	不明
2004年9月6日	葉菜類	33	5	8	18	1	0	30	0	0	3	0	0	0
	果菜類	24	2	1	16	0	0	19	0	0	6	2	0	0
	根菜類	5	0	0	2	0	0	12	0	0	2	0	0	0
	花	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	非食用植物 計	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	タケノコ類	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	キノコ類	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	魚類など水生動物	11	1	0	6	0	7	1	0	0	2	0	0	0
	陸上動物	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	昆虫	2	0	0	3	1	1	0	0	0	0	2	0	0
2004年11月16日	葉菜類	57	13	2	106	8	6	65	4	0	19	3	0	0
	果菜類	43	2	4	35	13	5	53	17	2	10	0	1	0
	根菜類	10	0	1	4	1	2	19	7	0	3	0	0	0
	花	8	1	1	8	3	0	2	0	0	0	0	0	0
	非食用植物	5	1	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	タケノコ類	6	3	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	キノコ類	3	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0
	魚類など水生動物	26	2	0	26	14	0	2	0	1	0	0	0	1
	陸上動物	5	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	11
	昆虫	5	0	0	3	2	3	0	0	1	0	0	0	0
2005年3月13日	葉菜類	57	13	16	37	15	6	104	5	0	0	1	0	2
	果菜類	47	4	26	22	9	7	48	11	0	1	3	1	4
	根菜類	8	1	3	1	4	0	17	0	0	0	1	0	0
	花	2	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1
	非食用植物	3	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	タケノコ類	6	4	1	2	4	0	0	2	0	0	0	0	0
	キノコ類	5	2	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	魚類など水生動物	25	6	0	40	10	2	1	3	1	0	4	1	3
	陸上動物	8	0	4	2	3	2	1	1	0	0	0	0	1
	昆虫	9	2	1	15	5	1	0	3	0	0	1	0	3

聞き取り調査により作成

ダンサン市場までの流通経路には、販売する商人みずからが採集・栽培する経路、採集・栽培者から購入する経路、他の商人から購入する経路がある。これらを空間的にみると、商人の居住地からの経路、様々な生産地からダンサン市場への経路、ビエンチャン市内の卸売市場からの経路、タゴン市場からの経路、ほか地方市場からの経路がある。

商品別に主な流通経路をみると、9月と3月では、最も多種の葉菜類・果菜類・根菜類を供給したのはビエンチャン市内に位置するタートルアン That Luang 市場である。タートルアン市場やクアディン Kuadin 市場など、ビエンチャン市内の市場はラオス国内で生産された野菜のほか、タイから輸入された野菜も販売している。ビエンチャンから供給される野菜が多いことから、ダンサン市場は生産地市場というよりも、消費地市場としての性格が強いことがわかる。次に主要な供給地は、採集あるいは栽培・飼育地である村である。野菜類では11月にタートルアンを上回って多くの種類を供給している。11月と3月には、商人が採集・栽培者であるケースも多くみられた。

魚類・水生動物や昆虫類では、タートルアン市場を上回って村が主要な供給地となっている。ダンサン市場での仕入とは、採集者・栽培者が市場に持ち込んだ品物を買取るという経路である。魚類・水生動物ではこの方法が、村での購入に次いで一般的な方法である。

タケノコ・キノコ類と陸生動物では、販売者自らが採集・栽培し供給する経路が主要である。

(2) 仕入方法と生物資源

ここでは商人による仕入方法と生物資源の選択について検討する。表2は、それぞれの流通経路を形成している商人の人数を示したものである。

表2 ダンサン市場の生鮮品商人の仕入方法

調査日 主な仕入方法	2004年9月6日		2004年11月16日		2005年3月13日	
	人数	%	人数	%	人数	%
採集	6	12.5	5	8.2	8	9.3
栽培	6	12.5	1	1.6	14	16.3
村人から購入	11	22.9	31	50.8	32	37.2
Danxan市場	10	20.8	5	8.2	9	10.5
卸売市場TG	6	12.5	2	3.3	3	3.5
卸売市場VT	3	6.3	14	23.0	13	15.1
その他の市場	3	6.3	1	1.6	2	2.3
その他の方法	0	0.0	1	1.6	1	1.2
不明	3	6.3	1	1.6	4	4.7
合計	48	100.0	61	100.0	86	100.0

聞き取り調査により作成

3回の調査を通じて最も多くの商人が選択した仕入方法は、村での購入である。3回の調査の延べ人数は74人で、延べ人数合計の37.9%を占める。購入地は居住する村であることが多いが、近隣の村を回って購入するケースもみられた。村で一定量の商品を仕入れることで、市場への交通費用や市場使用料などの販売コストを支払うに十分な利益を得ることができる。しかし、ビエンチャン市内の市場ではなくダンサン市場を販売地としていることから、ビエンチャンに販売するに足るだけの大量の商品が得られない場合が多いと考えられる。この点は、1日のうちに集荷して販売する必要がある葉菜類や魚類・水生生物にとって重要であろう。3月調査において、村人から購入した生鮮品で最も取扱い人数が多かったのはナマズ (*Clarias spp.*) pa duc (9人) であり、ついでタイワンドジョウ (*Channa spp.*) pa kho (8人)、ツムギアリの子 kai mot daeng (7人) が多かった。これら野生資源は、村において販売目的の採集が活発な資源であると考えられる。また、1人が1回に採集する量は少なく、これらを集荷する商人が販売に重要な役割を果たしていると考えられる。

次に多くの商人が選択した仕入方法は、自らが採集者・生産者であるケースである。採集者・栽培者を合わせて、

取扱い人数は40人(20.5%)にのぼる。3月調査で取扱い人数の多かった商品は、インゲンマメ mak thua(5人)、トウガラシ pak pet (4人)、ツボクサ pak nok (3人)、pak kadun (3人)、エンサイ pak bong (3人)であった。ツボクサ Pak nok は湿地や水田に生息する草本類であり、Pak kadun は森林で採集される木本類の若葉である。

これらの仕入方法につづいて多くの商人が選択したのがタートルアン市場での仕入である。取扱人数は30人で、15.4%を占める。最も多くの商人が取扱った商品(3月調査)は、セイヨウハッカ hom laap (7人)、コエンドロ hom poun(7人)、イノンド pak xee (7人)などの草本類である。これらはビエンチャンに大量に集荷し、価格が安い生物資源であることが考えられる。

今後、これら商品に含まれる生物資源の特性を明らかにし、異なる流通経路の形成に、商品特性や生物特性がいかに関わっているのかを、より詳細に検討していく必要がある。

(3) 商人の属性

ここでは、上に述べた流通経路を形成している商人の属性について検討する。商人の属性に関する聞き取りは、9月と3月の調査でおこなった。

2回の調査を通じて最も参加人数が多かったのは、30代の女性である(表3)。ラオスにおいて、30代の女性は世帯の働き手として重要な位置を占める。その働き手が市場商人の多くを占めることから、市場での販売が重要な現金収入源であることがうかがえる。

3月調査では、これら商人が所有する農地について聞き取り調査をおこなった(表4)。もっとも多いのは農地をもたない商人で23.6%を占める。次に多いのは農地が2ha未満1ha以上の商人である。前者は周年農外活動に従事している可能性が高く、生物資源の販売からある程度安定した利益が求められる。一方後者は、農繁期には農外活動に充てる時間が減る可能性がある。したがって、農業との時間の組み合わせによって参加できるような販売機会が重要であることが考えられる。農業への関わりかたが異なる商人間で、活動の時間配分パターンの差異や、それらを可能とする生物資源へのアクセス、生物の特性等を今後検討する必要がある。

表3 ダンサン市場における生鮮品商人の属性 (2005年3月13日)

年齢	男性	女性	合計
10-19		1	2
20-29	0	10	10
30-39	3	35	38
40-49	2	18	20
50-59	0	10	10
60-69	0	2	2
不明	0	5	5
合計	6	82	88*

* このうち2組は夫婦

聞き取り調査により作成

表4 ダンサン市場における生鮮品商人の所有農地面積 (2005年3月13日)

農地面積(ha)	人数	%
0	28	32.6
0.9以下	6	7.0
1~1.9	24	27.9
2~2.9	14	16.3
3~3.9	2	2.3
4~4.9	2	2.3
5以上	3	3.5
回答なし	7	8.1
合計	86	100.0

聞き取り調査により作成

6 まとめと今後の課題

本稿は、サイタニー郡における市場の立地と生鮮品販売の規模を示し、そのうち規模の大きな1ヶ所の市場について、生鮮品の流通経路と商人の属性を検討した。その結果、次のことが明らかになった。

- ①サイタニー郡における市場は毎日市であり、交通費が比較的安く、世帯あたり平均農地所有面積が小さい国道沿いの集落にその多くが立地している。
- ②市場のうちいくつかは1980年代から立地しているものの、1990年代後半になってその数が増加している。
- ③比較的規模の大きなダンサン市場では、ビエンチャン市内の市場が生物資源の数と量において主要な供給地となっている。
- ④一方、同市場において多数の商人に販売への参加機会を与えているのは、農村において入手可能な生物資源である。
- ⑤同市場の取引に参加する商人でもっとも多いのは農地をもたない商人であり、ついで小規模な農地をもつ商人

である。

以上のことから、サイタニー郡における生物資源流通の動態を明らかにするためには、農村における生物資源の特性や入手可能性、商人の生活行動パターンに着目し、その季節変動や変化の方向性を検討していくことに意義があると考えられる。今後の課題としては、商品分類と生物資源分類の対応を詳細に明らかにすること、その生物資源の生息地の分布と利用状況の把握、および個々の商人に関するミクロな活動調査があげられる。

参考文献

足達ほか（2005）ビエンチャン市サイタニー郡内の資源利用と農業生産の地理的分布、本報告書所収。